

KWZ 社の成長戦略・多角化による新規事業

—竹の集成材の可能性—

氏 名 山本 朋也

指導教員 城戸 宏史

要旨

昨今、環境問題を目にする事が増えてきている。日本では公害は遠い昔の事と感じるようになったが、PM2.5などは中国より飛来する工場の煤塵であり、今現在おきている公害である。そして、世界中で産業活動における弊害として環境破壊が今なお進んでいる。

人類は産業革命以降、飛躍的に進歩している。何百年とつづいた産業活動の歪みが温暖化や異常気象など地球上で見られるようになってきた。そのため、各国が環境問題に対応する為にカーボンニュートラルを始めとし様々な取組を始めようとしている。

KWZ 社は、産業廃棄物収集運搬業の会社であり運送会社である。ただし、その顧客は環境産業を担う企業である。環境産業が変革期を迎える中で、KWZ 社も変革を迎える時がきている。つまり、KWZ 社の今後の成長戦略を検討する必要な時が来ているのである。

本稿では、第1章では、KWZ 社が現在の規模になるまでの経緯を振り返ると共に経営状況を示した。また過去の成長戦略をアンゾフの成長ベクトルにて分析を行った。第2章では、環境産業の現在の動向を明らかにし、世界的な環境問題の取組であるカーボンニュートラルと、今後の産業構造の流れになるであろうサーキュラーエコノミーについて述べている。第3章では、KWZ 社の今後の現状を PEST 分析、クロス SWOT 分析をおこない成長戦略の方向性を示した。第4章では、KWZ 社の今後の成長戦略についてアンゾフの成長ベクトルで分析を行い、新規事業の必要性を述べている。第5章では、本研究の目的である竹の集成材の可能性について検討したうえで、収支計画を提示した。そして第6章では、KWZ 社の成長戦略において新規事業の必要性と竹の集成材ビジネスの可能性を示し、新規事業の検討について提言した。